

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程 1 年
氏名	河本悠吾

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本モンキーセンター
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 6 月 25 日 ~ 平成 28 年 6 月 28 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
公益財団法人日本モンキーセンター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本実習の目的は、PWS の 3 つの出口の一つである、博物館・動物園・水族館で活躍するキュレーターについて、その活動を学び、実践することである。
日程 6/25 園長レクチャー、園内見学 6/26 園内見学、来園者調査 モンキーサロン見学、科学コミュニケーション実習 6/27 獣医見学、展示学概論、標本実習 6/28 飼育実習、霊長類基礎セミナー
初日 初日はまず、園長から日本の霊長類学と日本モンキーセンターの成り立ちや歴史についてのレクチャーをしていただいた。 レクチャーの後には園内見学を行った。かつて多くのサルを飼育していたが現在は使われていない施設や、改修中のスローロリスの展示を見せていただいた。
二日目 午前中はまず、昨日見ることができなかった施設を見学した。その後、各々が好きな種について、その展示を見る来園者の会話や反応、滞在時間を予想した上で、実際に展示の前に立ち、それらの項目について記録した。私はシロテテナガザルの展示の前で調査をしたが、予想を大きく下回る滞在時間であった。シロテテナガザルの展示の周りには他のテナガザルも展示されており、どれも同じように見えてしまって流されているのかなと感じた。会話の内容に関しては自分の予想通り、子ども個体や彼らの動きに関するものが多かった。 午後は来園者と一緒にモンキーサロンに参加させていただき、その後科学コミュニケーションについて実習と講義が行われた。午前中に来園者調査を行ったシロテテナガザルの展示の前で、今度は来園者に話しかけてレクチャーをするという内容だったが、これはとても難しかった。まず、その時間帯に来園者が足を止めて展示を見てくれることが少なかった。話ができたのは数組で、話している最中に来園者の方からいろいろと質問してくれたためスムーズに会話ができた。それがなければもっと硬くなっていたと思う。来園者がどのような内容を求めているのか、どの程度の時間で切り上げるのかよいかなど、考えることはたくさんあり、瞬間的に判断して会話を進めるのは大変だった。
三日目 午前中は獣医の見学を行った。私たちが見学をしている 1, 2 時間ほどの間でもカニクイザル、マントヒヒ、ワオキツネザルと、三件の治療が行われていた。治療の内容や麻酔の方法やその薬剤等について説明していただいた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

標本実習では、まず死んだ個体の解体を見学した。学部時代に経験したことがあったが、においては強烈で、毛皮などを残す場合は丁寧な作業が求められるということで時間もかかり、改めて大変な作業だと感じた。その後骨だけになったものを、体の部位ごとに大まかに分類する作業を行った。

四日目

最終日は飼育実習を行った。私はアジア館を担当した。給餌と園内の植物採集、寝室の清掃を行った。果物や野菜だけでなく、自然の植物を与えていることは経済的にも動物的にも重要なことだと感じた。植物の中には、ある種の動物では体調を崩す原因になるものもあるので、採集する植物に関する知識も必要だと分かった。



リスザルの島にて



カニクイザルの抜糸



ワオキツネザルの抜糸



給餌の様子

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援により行われました。また、本実習に際し、ご指導くださいました日本モンキーセンターの職員の皆様に感謝申し上げます。